

本社	〒600 京都市下京区塩小路通烏丸西入ル 新京都センタービル7階	☎ 075-343-1458 FAX 075-343-1421
東京支社	〒103 東京都中央区日本橋3-12-1 三木ビル3階	☎ 03-3274-6051 FAX 03-3274-6845
名古屋支店	〒450 名古屋市中村区名駅4-6-18 名古屋ビル6階	☎ 052-571-6331 FAX 052-586-4539
北陸支店	〒910 福井市中央1-4-1 安田生命福井第二ビル6階	☎ 0776-25-2750 FAX 0776-27-5113
九州支店	〒812 福岡市博多区博多駅前1-2-3 住友博多駅前ビル4階	☎ 092-472-6353 FAX 092-472-4989
研究所	〒600 京都市下京区西七条東久保町55	☎ 075-321-1441 FAX 075-314-4347

逸泥防止剤

マッドストップ[®] シリーズ

安定液掘削工法において、砂または砂礫層など透水性の大きな地盤の掘削時には、安定液の逸失現象、いわゆる逸泥が多く見うけられます。

逸泥は、経済的な損失や地下水の汚染にとどまらず、著しい逸泥では溝（孔）壁の崩壊を招くことがありますので、その防止のために、通常、微細な繊維状や粒状の逸泥防止剤を安定液に添加します。

逸泥防止剤は地盤の間隙に合致したものを選定することが重要です。当社では、逸泥防止剤の性能を有効にご活用いただくために、マッドストップ R、マッドストップ Mの2品種を揃えていますので地盤に応じてご選定ください。

〈組成〉

マッドストップ R	ロックウール粗砕品
マッドストップ M	綿実殻粗砕品

〈性状〉

マッドストップ R	灰白色繊維状
マッドストップ M	褐色繊維状

〈特長〉

1. 広範な地盤に対して、その透水係数に応じたマッドストップの組み合わせによって、優れた逸泥防止効果が得られます。
2. 安定液の造壁性改善効果があり、美しい壁面が得られます。
3. 安定液中への分散が容易ですから、浮き塊や沈降塊が少なく、有効利用率が高まります。
4. 鋸屑、パルプ滓など他の逸泥防止剤との併用も有効です。

〈標準使用量〉

地盤と標準添加量

(単位：%)

地 盤	使用方法	マッドストップ R	マッドストップ M	適正な合計添加量
砂	単独の場合	0.5~1.0	—	0.5~1.0
砂 礫	単独の場合	0.5~1.5	—	0.5~1.5
	併用の場合	0.1~1.0	0.1~0.5	0.5~1.0
礫 (含玉石)	単独の場合	—	0.5~1.0	0.5~1.0
	併用の場合	0.5~1.0	0.5~1.0	1.0~2.0

〈使用上の注意〉

1. マッドストップは、新液を調製する際に添加すると、良く分散して効率が高まります。
2. 逸泥時には逸泥防止剤の添加と共に、安定液の粘性を高めるとより有効です。
3. 循環工法でマッドストップを使用するときは、スクリーンの目詰まりや、スクリーンで除去されてしまうことがありますので、スクリーンの取りはずしや網目の大きさを変えることが必要です。

〈荷 姿〉

マッドストップ R 紙袋入 10kg 詰

マッドストップ M 麻袋入 20kg 詰

〈お願い〉

1. この資料に記載しているデータは、当社の実験的試験資料に基づくものですが、実際の現場使用結果を保証するものではありません。現場での使用に当たっては事前に使用条件、使用方法およびこれらの条件下での効果をご確認ください。
2. 記載内容は、新しい知見などにより、改正されることがあります。